2022年3月1日発行
（毎月1回1日発行）（77巻3号）
ISSN 0035-7774

Digest of Science of Labour

労働の科学

2022 March
Vol.77, No.3

狩人の日記／山本美智代

特集

多様な視点から防災について考える

災害発生時のトイレ・衛生管理を考える／加藤 篤
ジェンダー視点から見た防災政策と課題／浅野幸子
災害伝承碑に学ぶ未来への警鐘／髙瀬 正

巻頭言

仕事や働く環境，働き方の未来予想図を描きながら
北島洋樹

特別企画

100周年記念 倉敷シンポジウム基調講演
江上 剛

連載

労研アーカイブを読む⑭
岸田孝弥

凡夫の安全衛生記⑹
福成雄三

連載

芸能従事者の今⑨
森崎めぐみ

ILOインド・南アジアこぼればなし⑾
川上 剛

大原記念労働科学研究所

Digest of Science of Labour

労働の科学

2022 March 3
Vol.77, No.3

巻頭言　俯瞰（ふかん）

101年目の挑戦――労研の役割とあり方③
仕事や働く環境，働き方の未来予想図を描きながら …… 1
北島 洋樹［大原労働科学研究所 副所長］

表紙作品：山本美智代
「狩人の日記」
シルクスクリーン（63.5×45.5cm）
表紙デザイン：大西文子

Special Events

特別企画　100周年記念倉敷シンポジウム
基調講演採録　**百年先が見えた男―大原總一郎** ……［作家］江上 剛 ……4

特集　多様な視点から防災について考える

災害発生時のトイレ・衛生管理を考える
……［特定非営利活動法人 日本トイレ研究所］加藤 篤 ……12

ジェンダー視点から見た防災政策と課題
……［減災と男女共同参画研修推進センター］浅野 幸子 ……16

災害伝承碑に学ぶ未来への警鐘
……［埼玉県小川町文化財保護委員］髙瀬 正 ……21

Graphic

写真でみる労研の歩み（1）
…… 口絵

Series

ILOインド・南アジア こぼればなし (11)
スリランカの紅茶農園から ..... 川上 剛 *26*

チャレンジ！SDGs (10)
取り組みテーマは「綱引き」と「一石二鳥」で決める ..... 泉 貴嗣 *30*

「＃教師のバトン」で伝わる (10)
教職員の過酷な勤務環境 ..... 藤川 伸治 *34*

労研アーカイブを読む (74)
産業心理学的アプローチから産業モラールを考える ..... 岸田 孝弥 *38*

芸能従事者の今 (9)
精神医療の受療機会の不均衡 ..... 森崎 めぐみ *42*

漂流者たち クミジョの肖像 (12)
「連合は」クミジョをどうあつかってきたか(4) ..... 本田 一成 *48*

凡夫の安全衛生記 (61)
「法令より少しだけ早く」現実が求めた取り組み ..... 福成 雄三 *50*

Column

Talk to Talk
意義ある何か ..... 肝付 邦憲 *52*

BOOKS
『「いま・ここ」習慣 この瞬間をいかに生きるか
やめたくてやめられない習慣を手放すマインドフルネス』
マインドフルネスによる脳の活性化 ..... 椎名 和仁 *54*

勞働科學のページ *56*

次号予定・編集雑記 *64*

仕事や働く環境、働き方の未来予想図を描きながら

北島 洋樹

きたじま ひろき
大原労働科学研究所 副所長

大原記念労働科学研究所が設立された1921年の前後では、様々な雑誌や新聞で「100年後の未来」が特集されています（国立国会図書館第111回常設展示資料、2000年）。例えば、「二十世紀の豫言、報知新聞（1901年1月2，3日号）」、「百年後の日本、日本及日本人、政教社（編）、1920年」、「百年後の科学画報、科学画報、誠文堂新光社(編)、1927年」などです。このうち報知新聞の特集は、米沢富美子さんの著書「複雑さを科学する（岩波書店、1995年）」で詳細に引用されています。米沢さんは、無線電信電話、遠距離写真、7日間世界一周、買物便法などはほぼ100年の間に実現されているが、暴風を防ぐ、電気の輸送などは完全には実現されていないと分析し、預言は全てではないがかなりの部分が1世紀の間に達成されたのではと結論しています。

技術の発展は、社会状況や生活、仕事の内容や働き方に影響を与えます。社会や働き方の時代精神が新しい技術を要求することもあります。身近な例ですが、今、新型コロナ禍の影響によりテレワーク的な働き方が急増しました。多くの企業や働く人々がテレワークの良い点も悪い点も実体験したことで、働き方そして生活の仕方が変わりつつあるように思われます。場所に囚われない働き方は、都市部への人口集中を緩和し、企業や働く人個人と地域社会との結びつきをより密接にしてゆく可能性もあります。

さて、労働科学の次の100年はどうでしょうか。大原孫三郎さん、大原總一郎さんは100年先が見えたと言われています。凡人が100年先を見ることは難しいのですが、あえて大きなことを想像してみます。これからの100年で働き方に重大な影響を及ぼすような事象は、気候変動、人口動態、国際紛争、スマートシティ等の実現と発展（IoT社会、デジタル社会の進展）、リアルとバーチャルの境界や人間と機械の境界が曖昧になること（IoTやAI技術、医療技術の進展による人格を感じることができる機械の出現、サイボーグ技術の発達）等々でしょうか。宇宙で働く人も増えているかもしれません。これまで以上に仕事の内容や働き方の劇的な変化があり、その結果、働く人のメンタル面への影響がより強くなることも考えられます。ジュール・ベルヌは「想像できることは実現する」という言葉を残していますが、100年前の預言もそれを裏付けているように思います。ただ、未来は勝手に訪れるのではありません。未来は選択できる可能性を持っています。100年先にどんな環境で、どんな社会で、どんな生活（働くことを含め）をしたいかを想像し、少し先のより良き未来を考えつつ、まずは足元の現実の問題に地道に取り組んでゆきたいと思います。そのために、大原記念労働科学研究所では「2030年ビジョン」及び2024年度までの「第二次中期計画」を策定し、組織文化の改善、企業と地域、多様性の確保、技術発展と働き方の変化、国際協働活動などを大きなテーマとして取り組んでいます。